

優生〔復刻版〕全2巻

●発行——日本優生結婚普及会

●体裁——A5判・上製・総約1,000頁

●解説——加藤秀一（明治学院大学教授）

総目次・索引（第1巻巻頭に収録）

●揃定価——本体40,000円＋税

ISBN978-4-8350-7876-2

●推薦——鈴木晃仁（慶應義塾大学教授）

優生（第一巻三號）目次

口 緒言…………… 1

—— 一 緒言…………… 1

—— 二 偉人と血統…………… 1

—— 三 種族はどうして保存されたか…………… 1

—— 四 遺傳學の開祖グレイホル・メンデル…………… 1

—— 五 遺傳學の話…………… 1

—— 六 優生——結婚相談…………… 1

—— 七 婚約と遺傳——色々の遺傳——近頃の遺傳…………… 1

—— 八 文苑…………… 1

—— 九 萬葉情結…………… 1

—— 十 會員芳名録…………… 1

優生だより…………… 1

—— 11 學術に對する優生の態度…………… 1

—— 12 ショウケイの遺傳…………… 1

—— 13 家族…………… 1

—— 14 家族…………… 1

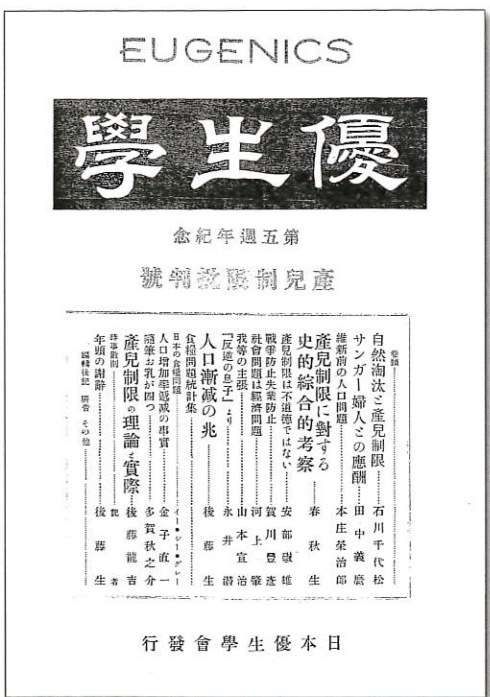
—— 15 家族…………… 1

●関連図書のご案内

日本優生学会発行（1924～43年）
優生學 全16巻・別冊1

体裁ⅡB5判・A5判・上製・総7,904頁
別冊Ⅱ解説（中馬充子）・総目次・索引
推薦Ⅱ市野川容孝・笹栗俊之・鈴木晃仁・鈴木善次
揃定価Ⅱ本体296,000円＋税
（全4回配本、各本体74,000円＋税）

第一次世界大戦勃発後、日本でも優生学研究体制の必要性が叫ばれるようになる。その活動をまとめるものとして、後藤龍吉は『ユーゼニックス』を創刊する。後に『優生學』と改題される本誌に掲載の執筆者は、医学博士から精神科医、児童相談所員等と幅広く、そのため登場するキーワードも、「遺傳」「人種改良」「性」「犯罪」等、実に多様である。当誌は当時刊行された数少ない「優生學」専門誌だったが、全号を所蔵する研究機関は存在しなかった。現在の生命倫理に対しても鋭い示唆に富む重要資料である。



表示価格は、全て税別

不二出版

〒113-0033
東京都文京区向丘1-11-1
TEL 03-3811-4433
FAX 03-3811-4433
振替 003138114433
003138114433
003138114433
003138114433

日本優生結婚普及会機関誌

1936年～1939年

優生

復刻版 全2巻

解説（加藤秀一）・総目次・索引（第1巻巻頭に収録）

推薦——鈴木晃仁

揃定価——本体40,000円＋税

2016年6月刊行

『優生』は、優生学の研究および啓蒙に大きな影響

力を持った日本民族衛生協会（一九三〇年設立）の付属機関である日本優生結婚普及会（会長 永井潜）の機関誌である。

「結婚衛生思想の普及及び涵養を図る」（会則摘要）ことを目的とし、東京白木屋デパート内に「優生結婚相談所」を運営していた。

戦前期日本における優生学の啓蒙・普及活動の従来知られざる一面を伝える貴重資料である。



不二出版

『優生』推薦文

鈴木晃仁

近現代の社会に大きな影響を与えた「優生学」は、生殖、健康、人口、福祉国家といった多様な主題にかかわる運動を進展させ、それらをゆるく連接して異なった政策や方向性を束ねる概念として機能していた。その多様性は、優生学を国際的に見るといっそう明らかになる。優生学が取った方向は各国によって大きく違い、ナチス・ドイツ、北欧、北米では、断種・不妊手術が行われ、ことにナチス・ドイツでは、一〇万人を超える精神障害者やマイノリティの「安楽死」が行われた。一方、フランスやイタリアなどでは、胎児や子供の身体の健康化の運動が優生学として行われた。一つの国の中でも、相反する運動が同じ「優生学」の名のもとに行われていた。優生学を理解するには、一つの範例ではなくて複数のモデルを考え、それらを政府が推進し国民が実施して国際的な動きとなった、社会の様々な力を考えなければならぬ。

日本における優生学の一つの軸であった「優生結婚」の問題は、全体主義的な人口統制と国民の身体の近代化の双方を目指していた戦前の日本を分析して、戦後の社会と優生学の国際的な多様性を明らかにする重要な史料である。戦前の日本が結婚を通じてどのような社会を作ろうとしていたのか、その担い手と利用者たちは誰だったのか、戦後の近代的な結婚にどのようなつながりがあったのか。国際比較を織り込んだ研究が俟たれる重要な史料の復刊である。

(慶應義塾大学経済学部教授、医学史)

雑誌『優生』解説

加藤秀一

はじめに

『優生』は日本優生結婚普及会の会誌として一九三六(昭和十一年)三月一日に創刊され、一九三九(昭和十四年)一月二〇日発行の第四巻第五号まで、基本的に月刊誌として、約三年半にわたって発行された。発行主体である日本優生結婚普及会は、優生学の研究および啓蒙に大きな影響力を持った日本民族衛生協会(一九三〇年設立)の付属機関であり、大衆向けに優生学を普及することを主たる活動としていた。各号の巻頭に掲げられた「会則摘要」には、「財団法人日本民族衛生協会付属団体として、日本民族衛生協会の事業を翼賛し、結婚衛生思想の普及及び調査を図ること」という目的が明記されている。また、協会が一九三三(昭和八年)年に開設した優生結婚相談所(東京白木屋デパート中二階に設置)の運営事業も、協会本体から普及会に移管されたようである(ただし、運営の実質的な担い手が変わったとは思われない)。

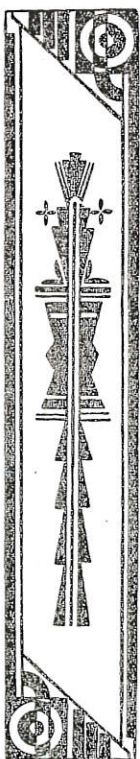
日本優生結婚普及会の最大の特徴は、会長の水井潜(東京帝国大学生理学教授)を除くすべての役員が女性であり、また正会員も女性に限られたことである(男性は賛助会員または名誉会員のみ)。「優生」編集長の安井洋による創刊号の「巻頭言」に「家庭の幸福と子孫の健全とを求むるためには、配偶者の質を選ばねばならぬ。殊に、結婚によつて、

執筆者索引

青木延春	3-7-15	池見 猛	1-2-19, 1-4-12	石原房雄	3-8-2	内村祐之	4-1-1	宇留野勝弥	1-12-15	大町文衛	1-5-22	岡 徹	1-5-19, 1-8-5, 1-9-16	小口忠太	4-5-12	小野記彦	1-9-12		
駒井 卓	1-5-21	駒場野牧人	1-6-14, 1-7-15, 1-8-13, 1-9-18, 2-1-16, 2-2-17, 2-3-11	斎藤茂三郎	1-1-1, 1-2-16, 1-3-14, 2-6-7-14	佐藤美実	1-2-21	杉沼宗良	4-4-7	瀬戸 洋	1-10-10	高野六郎	3-12-2	竹内茂代	1-10-3, 3-1-2-2, 4-5-15	田中義盛	1-5-2	土肥実高	1-6-12
会 計 係	2-5-17, 2-6-7-23, 2-10-16, 2-11-16	海南隠士	2-1-11	海部黒人	1-3-20, 1-4-18	加用信憲	1-5-21, 1-6-13, 1-8-10, 2-2-2, 2-2-11, 2-10-12, 3-11-11	川 上	1-3-18, 1-3-19	川上理一	1-1-8, 1-1-15, 1-2-12, 1-3-16, 1-4-9, 1-6-6, 2-2-12, 2-5-2, 3-9-1	黒井武雄	1-6-7	小島三郎	2-1-2	児玉 昌	1-10-15	小林橋川	2-5-11
【あ】		【さ】		【た】		【な】		奈 陀	1-12-19, 1-1-21	永井 潜	1-1-2, 1-3-2, 1-7-2, 1-9-2, 1-10-4, 1-12-2, 2-6-7-2, 2-6-7-24, 2-11-2, 2-12-2, 3-5-1, 3-6-2								

目次

表紙	ミケル・アンゼロ作 デビッド録
口絵	狩野芳庵筆 慈母観音
巻 頭 言	優生学 一 兼 談
優生学の使命	鈴木 晃 仁
遺 傳 の 話	宮田 正 一
獨逸に於ける優生運動の現状	吉 益 備 夫
優生結婚問答	吉 益 備 夫
優生結婚相談所の趣旨	加藤 秀 一
優生結婚相談所案内	加藤 秀 一
偉大なる愛の人一茶	加藤 秀 一
〇十二支の迷信	加藤 秀 一
優生だより	加藤 秀 一



優生学の使命

醫學博士 永 井 潜

人間は確に人生の太陽であります。學問も、美術も、宗教も、政治も、経済も、一家の盛衰も、一國の興亡も、人生の凡ては、この太陽を中心として居る流星の旋舞に過ぎないのであります。人生を明るくするには、何はさて置き、先づ以て斯の太陽を明るくしなくてはなりません。優生学の使命は其所にあるのであります。然らば太陽である人間を、より良くし、より高くするには、一體どうすればよいのでせうか。植物を御覧なさい。良い種子を選び、良い手入れをして、始めて、良い花を開き實を結ぶではありませんか。而かも如何に

優生結婚相談所の趣旨

自分は一代でも子孫を末代です。結婚は人生の源泉です。心身共に健全なる配偶者を選んで、幸福な家庭生活を営み、健全な子孫を遺して行くことが、結婚の目的でなくてはなりません。

これまでの人は結婚といへば家柄や財産や地位ばかりを望んだり、年廻りや合性や日の吉凶といふやうな傳統や迷信にのみ捉はれて、結婚の衛生といふことについては、餘りにも無頓着であつたといはねばなりません。それが急に折角立派な華燭の典を舉げても、間もなく不幸な事件が起つたり、本人たちや子供に悪影響が出たり、精神や身體の薄弱な子供が産れたり、最も樂しむべき結婚の産んだ人生の悲劇が到る處に演ぜられて居るではありませんか。

それといふのも、一つは結婚衛生とか遺傳とかいふ事に對する知識が乏しかったために外ならぬのであります。近來になつて民族衛生学ならば優生学の知識が進歩するに従つて結婚衛生の重要性が次第に解つて来て、現今では、人間一生

の重大事である所の結婚に、優生学的乃至衛生的の判断が非常に大切だといふ事が、論者の間に盛んに唱へられるやうになつて来たのであります。

若しも結婚衛生の判断を一步誤つたとすれば、其の他の條件が如何に良くとも、其の人の一生は全く暗黒となり、子々孫々取り返しのつかぬ不幸に陥ることになり、また反對に合理的の結婚をすれば、本人たちの幸福は勿論のこと、未來永遠一家は榮え、民族の繁榮は向上し、世の中はますます明るくなつて参ります。まことに結婚は、人生の源泉であり、吉凶禍福の成れる十字路であるといはねばなりません。

止れ！ 見よ！ 聴け！ これは將に結婚せんとする若人の行く手に、結ぶの神によつて掲げられて居るシグナルであります。世の結婚せんとする者、いとしい子女を結婚せんとする親たちは、共に先づこのシグナルを正視しなくてはなりません。

結婚に一番肝要な條件は双方の血統と健康とであります。しかも此の二つは素人の考へてゐるほど、たやすく判断の出来るものではありません。充分の専門的知識があり、且つ公平無私の態度を取る人によつて、始めて判断されるべきもの

日本優生結婚普及会 会則摘要

名 稱	日本優生結婚普及会
目 的	財団法人日本民族衛生協会、附屬團體として、日本民族衛生協会の事業を翼賛し、結婚衛生思想の普及及び調査を図ることを目的と致しす。
事 務 所	東京市本郷區東宮前(東京帝國大學醫學部生理學教室内)〔振替口座東京八四三三五番〕
會 員 の 種 類	一、正會員(女子) 普通正會員 年額會費五圓を納むる方 特別正會員 年額會費五圓を納むる方 一、賛助會員(男子) 普通賛助會員 年額會費五圓を納むる方 特別賛助會員 年額會費五圓を納むる方
名 稱	一、終身會員 別額五十五年間會費を納入せられた會員又は一時金十圓若しくは五十圓を前納される方を普通乃至特別終身會員とし、以後會費を徴收致しません。
名 稱	一、名譽會員 本會に功勞ある方、又は本會に金百圓以上を寄附せられたる方で終身會に於て推薦し、本會々長の承認を得た方。
會 員 の 特 典	會員には所定の會員章を贈り、會誌を配布致します。特別會員、名譽會員には、本會々誌の外に、日本民族衛生協会発行の雜誌『民族衛生』、其他の『パンフレット』を配布致します。
會 員 の 介 紹	會員又は會員の紹介する方は、日本民族衛生協会附屬の優生結婚相談所(白木屋デパート中二階)に於いて、無料の相談を依頼すること出来ます(但し特別の費用を要する場合には實費を申受けませぬ)。
事 業 概 要	一、民族衛生、結婚衛生に關する講演會、講習會の開催 一、日本民族衛生協会附屬の優生結婚相談所の事業に對する協力 一、其他必要な諸種事業
會 長	永井 潜
副 會 長	水野 花江
副 會 長	山田 秀子
副 會 長	永井 次代
副 會 長	大久保 繁子
副 會 長	吉岡 彌生
幹 事	平山 喜代
幹 事	井出 ひろ子
幹 事	高良 富子
幹 事	久保 良子
幹 事	坂本 紀子
幹 事	田宮 佳子
幹 事	吉岡 愛子
幹 事	山本 彩
幹 事	岩間 林
幹 事	藤 根 伸子
幹 事	岸 澄子
幹 事	長 與 玉子
幹 事	牛 原 直子
幹 事	横山 須磨子
幹 事	堀 越 みつ
幹 事	加 藤 しづ子
幹 事	齋 藤 ふじ子
幹 事	小 島 時子
幹 事	徳 山 敬子
幹 事	山 本 彩